

養成所ニュース

平成13年度 第1号 No.7

発行
財団法人 日本知的障害福祉協会
社会福祉士養成所
〒105-0003 東京都港区西新橋2-16-1
全国たばこセンタービル7階
TEL:03-3438-0984

第13期生288名が受講スタート!

第13期・新受講生を迎えて



財団法人 日本知的障害福祉協会
社会福祉士養成所

所長 雄谷 助成

このたびは、多数の応募の中からの合格おめでとうございます。
これより皆さんは「社会福祉士」に向けての第一歩を歩み出されたこととなります。
このときにあたり皆さんに一言はなむけの言葉を送りたいと思います。
受講される288名のほとんどの皆さんが、多事多忙な中受講され、国家資格取得を目指されることと思います。そこに要求される努力は並大抵のものではなく、悪戦苦闘という言葉が浮かぶほどのものとなるでしょう。

しかし、たんなる資格取得が皆さんの最終目的ではないことは自明のこと。今新たな創造の時代を迎えつつある福祉の世界において「社会福祉士」の資格を取得することは力強い翼を得ること、その翼を駆使して皆さんが新たな時代を創造するのです。悪戦苦闘もすべてはそのためのもの。その目標のため今なすべきことに全力を注がれることを期待します。

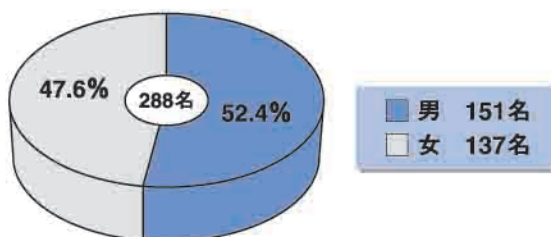
■第13期生の概要(4月1日現在)

社会福祉士養成所第13期生の受講生は、288名となりました。
概要については下記の通りです。

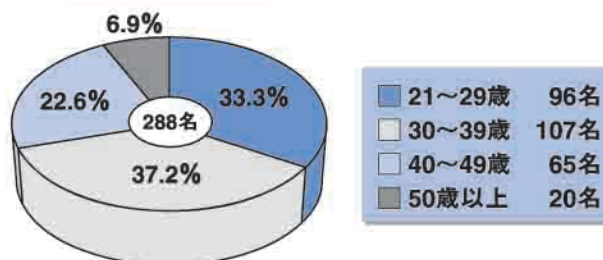
●応募状況(過去3年間)

年度(期生)	応募者数	入学者数
平成11年度(11期生)	1,913名	300名
平成12年度(12期生)	1,580名	321名
平成13年度(13期生)	837名	288名

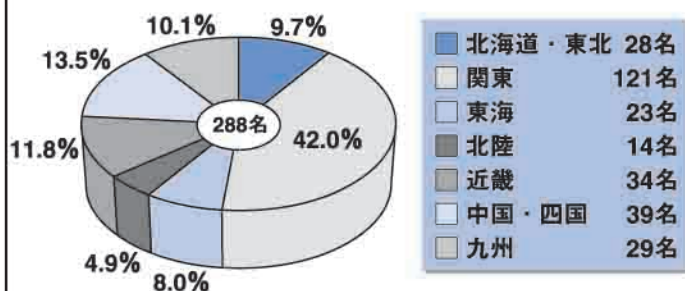
受講生男女比



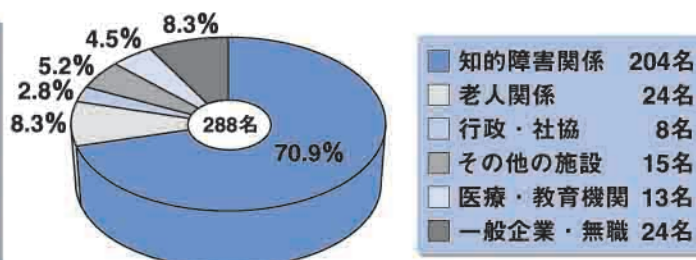
年齢別分布



地区別分布



勤務先種別



国家試験合格者の声

社会福祉法人秀風会 光の里 山ノ口 隆文

私は、実はこの養成所入学に一度失敗して、ある意味で苦い経験をしました。その「一度の失敗」は教訓でした。失敗してすぐ福祉新聞の購読を始めました。まだまだ社会福祉について知識や理解が乏しいこと、福祉情勢に鈍感であると痛感しました。福祉新聞は福祉の動向を知る最も適した生きた教材です。翌年の養成所入学の論文にも大いに役立ったことは言うまでもなく、結果的に福祉新聞を3年間購読し続けたことが社会福祉士資格取得への意欲と情熱を維持でき、「国家試験一発合格」に繋がったかなと思います。

私の勉強法は、先ず毎月テキストを一通り丁寧に読み、レポート提出後はまとめとして、また受験の前段階として参考書(ワークブック、必携、福祉小六法)を読んだ。この方法で毎月のスケジュール表を作成し細かく記録、いつでもどこにいても現在状況を確認する、最後までこの方法を貫きました。仕事や家庭の都合で予定通りには進みません。受験勉強は参考書に加えて、過去問題集(第9回以降)、模擬試験問題集を中心に組み合わせた。過去問題集は各科目の成績表を作り、年度ごとに得点を記入して実力(得意・不得意)を確認して、2回目以降は更に良い結果を出すように正答率7割を目指した。不安を解消する意味でも苦手を作らないこと、全科目平均した点数を取れるようにすることが大事です。

11月の統一模擬試験を仕事の都合で受けられず、12月に自宅で実施して正答率48%だった。風邪を引いて体調も悪かったが(本番では健康管理に留意すること)、この結果に愕然としましたが、焦らず、悲観的にならず、残り1ヶ月を大事に不得意科目を中心に過去問題集を丁寧に繰り返した。とにかく必死でした。だから合格できたのかも知れません。

合格への道。月並みですが、①初心を忘れなかったこと、②「絶対一発合格」を決意したこと、③受験計画を立てたことでした。そして、この先輩方の『合格者の声』は、何よりも良きアドバイスでした。大好きなビールも我慢しました。受講生の皆さん、ご健闘を祈ります。最後に「ネバー・ギブアップ」

日本社会事業大学附属子ども学園 小泉 恵子

40歳後半からの挑戦で、毎日の仕事と家事・育児に追われ、勉強時間を作るのに四苦八苦した2年間でしたが、後期スクーリングの演習授業で、同じ状況の中で前向きに勉強している「中年働くお母さん達」と出会い、苦勞しているのは自分だけじゃないんだと知ったことが一番の励みになりました。

私の勉強法は次の通りで、参考になれば幸いです。

①基本は教科書:全体の半分も読めませんでしたが、毎月のレポート作成と共に少しでも教科書を読み、理解することを大切にし、重要事項は参考書等でチェックしながら、後々勉強しやすいよう整理しておきました。

②後期スクーリングでの75問模擬試験が起爆剤:問題を解く速さや自分の苦手科目や弱点を知り、出来の悪さに絶望感を味わったことで、レポート終了で一息入れたかった甘い気持ちから一転、受験モードに切り替えました。私のように時間も記憶力も限られた人は11月の模擬試験から手を打つのでは遅いです。

③問題集の解説を熟読理解:模擬問・過去問・予想問を正解になるまで繰り返し解くだけでなく、解説をしっかりと理解することが大切です。参考書はワークブック、必携、社会福祉小六法、福祉新聞、厚生白書に絞り、ノートは作らず必要事項はその都度「必携」に書き込み、年明けからは介護保険制度、社会福祉法、成年後見制度等を重点的に勉強しました。

④毎日の生活時間帯を有効活用:とはいえ、勉強がどれも計画通りに進んだことはなく、夜遅く帰宅してから家事や子どもに学校の宿題や明日の準備をさせ寝かしつけるだけで一日が終わってしまうため、台所仕事や通勤時間帯はカセットテープ学習を、トイレや歯みがきタイムは視覚学習をと、どれもコマ切れでしたが「時間のある人と同じようにやってちゃダメ」と自分に言いかけ、休日・正月休みなしでやり続けました。

継続は必ず力になります。「働くお母さん達」を心から応援し、皆様の御健闘をお祈り申し上げます。

吉田 美佐子

国家試験合格への希望を胸に秘め勉強の年間計画をたて、それを着実にこなすことを決意した私でしたが、実際本腰を入れ始めたのは10月頃でした。計画との余りの違いに呆れ返る思いですが、家事の合間をぬいながら1日7・8時間勉強するという短期集中型で何とか合格することが出来ました。

しかし、この様な試験日が近づくにつれて焦りとストレスが募り追いついていく様な勉強法はかなり厳しく苦しいものなので、早めに勉強を開始されることをおすすめします。具体的な勉強法については、以下に私自身がとった方法と気付いたコツを述べたいと思います。

①とにかく過去問題集を繰り返し解き、解説を熟読しました。私は全科目過去5年分、医学や介護概論など余り内容に変更の加えられない科目は過去8年分、正答した場合は○を誤答した場合は×の印を付けながら、全て正答するまで繰り返し解きました。最初はワークブックを暗記したり、カード作りをしていましたが、要する時間と労力の割

に覚えられず能率が上がりませんでした。ワークブック等は補助として、数多く問題にあたりそのコツや形式に慣れた方がよいと思います。

②模擬試験、模擬問題集、予想問題集に取り組みました。これは実際に時間を計りながら2回程繰り返しました。本番で焦ったりパニックに陥らない為にも時間配分に留意し確実に素早く問題を解く練習をしておく必要があると思います。

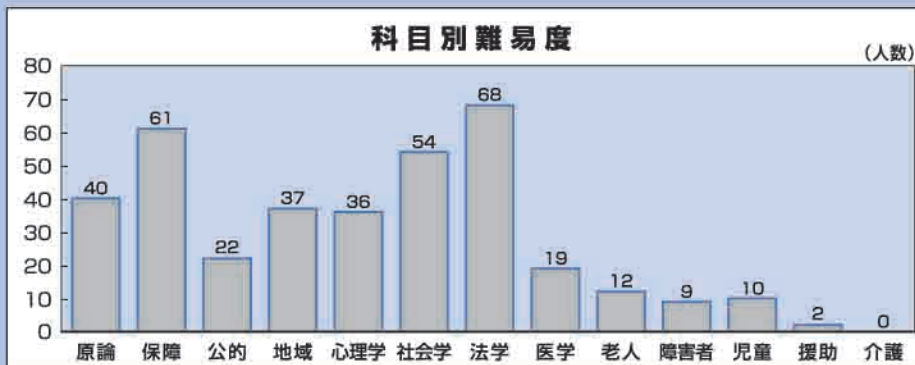
③法律の改正点、最近の福祉の動向やトピック、出題予想の情報をしっかりとおさえておきました。以上の3つが私のとった方法です。全部で2000問程解きましたが、不思議な程にカンが冴えてきます。あと何よりも大切なのは頭と心身の休息でしょう。頭が何も受け付けないう時は思いきって1日勉強から離れ気分転換をすると、次の日からとても勉強がはかどりました。

最後に、皆様の日々の努力が、どうか「合格」という実を結びますように、心からお祈り致しております。

第13回国家試験に関するアンケートについて

平成12年9月に修了した第11期生294名を調査対象とし、168名からの回答が得られた。集計結果の詳細は次回に掲載するとして、今回は、科目別の難易度についての結果を報告する。

第13回試験の科目別難易度としては右図のとおりである。今回初めてこの項目に関する調査を行ったため、例年の傾向については把握していないが、科目ごとの難易度に大きな開きが見られた。



養成所（通信課程）受講に際して

財団法人 日本知的障害者愛護協会
社会福祉士養成所

専任教員 後藤 昭八郎



第13期生の皆さんの受講がいよいよ始まりました。これから1年半を本養成所の通信課程において、社会福祉士養成講座を受講していただくことになりますので、よろしくお願い致します。

さて、昭和62年に社会福祉士及び介護福祉士法が施行されて早くも15年が経過しようとしています。そしてこの間に、わが国の社会福祉の情勢は基礎構造改革のもと介護保険制度の導入を始めとして、社会福祉事業法の改正、措置から利用・契約制度への移行等々大きな転換期を迎えています。

それに伴いわが国の社会福祉の将来を担う専門家としての社会福祉士には、ますます大きな期待が寄せられています。

このような重要な時期に社会福祉士を目指し受講される皆さんは、勿論そのことを十分踏まえた上でこれから勉学に励まれることと思いますが、多くの方々は仕事や家事・育児等と重複しての受講になることと思われます。

言うまでもないことですが本養成所の今回の受講は、あくまでも国家試験を受験するための受験資格を得るためのものですから、受講終了後の受験対策も視野に入れた取り組みが必要になります。

そのように考えてみますと何か気の遠くなるような話になってしまいますが、上述したような厳しい状況の中での受講ですから、一日のうちに学習に費やすことの出来る時間はごく限られてくることを覚悟して、今のうちから自分のおかれた立場や環境に相応しい無理のないスケジュールを立てておくことは大切なことです。

そのためにも、前掲の今年度の合格者を代表する3名の方の「声」などをぜひ参考にさせていただくことをお勧めします。

また折角立てたスケジュールも計画倒れに終わっては何にもなりません。それを如何に持続させて実行していくかが、最終的には決定的な決め手になります。

しかし、人間の集中力はそんなに長く持続するものではありませんから、スケジュール全体を念頭におきながらも短期目標、中期目標、長期目標というように段階を区切って、つまりポイントを絞って課題に取り組むのがよいでしょう。

皆さんの中には、いろんな情報が交錯して何から手を着けたらよいか混乱している方もいらっしゃると思いますが、この機会にある程度の整理を試みてください。

短期目標は、将来の中期目標や長期目標を達成するために現時点で取り上げる目標のことですが、そのために今他に優先して何をなすべきかを課題別に順序づけていくことが重要になってきます。

昨年の後期スクーリングの際に実施したアンケート調査の中に「これまで受講してきた中での反省点・今後克服すべき課題について」という質問項目がありますが、その回答の中で圧倒的に多かったのがレポートの提出に追われてテキストを読破するまでに至らず、各教科の系統的な学習が出来ていなかったと言った反省内容のものでした。理由はいろいろあるようですが、多忙のために止むなくそうになっている方も当然ある程度存在することは想定していたものの、毎年のようにこの養成所ニュース等で折に触れてテキスト通読の意義と重要性を強調してきただけに、この予想外の結果には少なからずショックを覚えました。

中には過去問等を優先した結果テキストの方が蔑ろになってしまったという方もありますが、それが反省の原因になっているとすれば目標の順序づけが最初から間違っていたことになるでしょう。基本を省いてなおざりにしたままでは、仮に国家試験に合格しても、専門家として将来よい仕事が出来るかどうか疑問が生じます。

短期目標がうまく達成できなければ、中期目標はもちろん長期目標にも影響を及ぼすことになります。幾つもの選択肢の中から今直面している最優先課題を峻別して、その1つ1つを解決して次のステップへと繋げていくことが、今後のスクーリングや科目試験そして最終的には順調な結果へと導く原動力になっていることを、これから受講される新入生だけでなく12期生の方々もこの機会に再認識しておいていただきたいと思っています。

最後にりましたが、今年の国家試験の合格発表が3月30日に行われました。全国の合格率が26.5%という厳しさでしたが、わが養成所からは昨年より12名多い209名の方がめでたく合格されました。みなさん方も優秀な先輩たちに負けないよう、それぞれの目標を掲げて一歩一歩邁進されることを願っております。

第12期生後期スクーリングのお知らせ

会 場 パシフィコ横浜「会議センター」

日 程 平成13年8月13日(月)～19日(日)

●日程表（12期生後期）

月 日	時 限	科 目	講 師 (所 属)
8/13 (月)	9:30~12:30	介 護 概 論	宇佐美千恵子(昭和医療短期大学)
	13:15~16:15	公の扶助論	松崎 泰子(淑徳大学)
	16:25~17:25	介護概論・公の扶助論 試験	
8/14 (火)	9:30~12:30	社会福祉援助技術論①	春見 静子(上智大学)
	13:15~16:15		
	16:25~16:55	社会福祉援助技術論① 試験	
8/15 (水)	9:30~12:30	社会福祉援助技術論②	松本 栄二(文京女子大学)
	13:15~16:15		
	16:25~16:55	社会福祉援助技術論② 試験	
8/16 (木)	9:30~16:00	社会福祉援助技術演習	演 習 教 員
	17:00~19:00	交流会予定 (申込者)	
8/17 (金)	9:30~16:00	社会福祉援助技術演習	演 習 教 員
8/18 (土)	9:30~12:30	老 人 福 祉 論	新名 正弥(東京都老人総合研究所)
	13:15~16:15		
	16:25~16:55	老人福祉論 試験	
8/19 (日)	9:30~12:30	地 域 福 祉 論	野口 定久(日本福祉大学)
	12:40~12:45	開 講 式	
	12:45~13:15	地域福祉論 試験	
	14:00~16:00	模擬試験予定 (任意参加)	
	13:45~16:15	社会福祉現場実習事後指導 (実習対象者)	



平成13年度
購読のご案内
知的障害福祉研究

- 毎月15日発行
 - B5判 74ページ(本文)
 - 1部 580円(税込・送料共)
 - 年間購読料6,300円(税込・送料共)
- ☆当協会加入施設職員の方は25,000円で年間購読できます。(1部470円)

「AIGO」はどなたでもご購読いただけます。
お申し込みはお葉書でもファクシミリ、Eメール
でもかまいません。ご住所・お名前・電話番号・
勤務先を明記の上、お申し込みください。

(財)日本知的障害者福祉協会 「AIGO」係
Tel.03-3438-0466/Fax.03-3431-1803

修了生の方へ

国家試験の受験状況に関する情報をご提供いただきありがとうございます。

第13期生

前期スクーリング日程

会場:日本都市センター会館
コスモスホール

期間:平成13年
11月18日～24日

受講生の方へのお願い

- 住所変更の際は所定の様式にて至急お知らせください。
- 電話でのお問い合わせの際は学籍番号と氏名をお伝えください。
- 養成所からの発信物は必ず目を通し、理解するようにしてください。
(問い合わせの多くが記載されています。)

養成所に対するお問い合わせ先

(財)日本知的障害者福祉協会 社会福祉士養成所

〒105-0003 港区西新橋2-16-1 全国たばこセンタービル7階

Tel: 03-3438-0984 (養成所直通)

ホームページアドレス <http://www.aigo.or.jp/>

※養成所に対するご要望・ご意見等ございましたら、ご連絡ください。